

令和4年度事業計画

1 基本方針

新型コロナは、変異株の感染拡大で人々の生活、社会・経済に多大な影響を与え続けており、加えてウクライナ情勢の悪化が原油価格の暴騰などエネルギー市場と世界経済に莫大な影響を与えつつあります。

一方、ワクチン接種等によりコロナとの共生が進むなかで、消費や投資を柱とする自律的な回復へのシフトが本格化するとの見方もあります。

このように先が見通せない中、当シルバー人材センター（以下「センター」という。）を取り巻く環境としては、高年齢者雇用安定法の一部改正により、会員の高齢化がますます進むものと思われ、就業面において機動力の低下や安全就業のリスクが高まってくると危惧されます。

加えて、収入の減少や物価上昇の高まりなどを背景に、受注の減少が懸念される状況ではありますが、センターの業績見込みについては、全体的には緩やかな景気回復の期待と、最低賃金改定等による単価見直しを考慮し計画しました。

センターとしては、人生100年時代を見据え、就業を通じた地域社会への貢献と、生きがいや居場所づくりとして重要な役割を担っており、地域の期待に応え信頼されるセンターとなるために、ボランティア活動など地域社会への貢献はもとより、今以上にセンターのイメージアップを図ります。

事業運営にあたっては、各種の施策を積極的に取り組みながら、多くの会員の就業機会を通じて地域社会発展の一翼を担います。

併せて、今後導入されるインボイス制度の調査研究など、各種の制度改正等に柔軟に対応し、健全財政に向け効率的な運営を目指します。

2 事業の実施項目

- (1) 会員組織の充実と活性化
- (2) 会員確保運動の強化
- (3) 就業機会の開拓・拡大
- (4) 安全・適正就業の推進
- (5) 地域社会への貢献
- (6) 事務局体制の充実と強化

3 目標値の設定

会員数、受託件数、契約金額等については、近年の実績状況を勘案して実現可能な目標を設定する。（派遣事業を含む。）

会員数	受託件数	就業延人員	契約金額
605 人	5,913 件	56,073 人	311,636 千円

4 事業の実施計画及び具体的な施策

(1) 会員組織の充実と活性化

- ① 会員それぞれが「自主・自立・共働・共助」の精神を念頭に置いて、会員相互の

連帯感の醸成や組織の活性化を目指す。

- ② 理事会や各種委員会等の研修を充実して能力や資質の向上に努め、定期的なセンターの検証と見直しを行い効率的な組織運営を目指す。
- ③ 地域班・職群班の拡充と強化のため、中心となるリーダーの育成や班長研修を行うなど、組織力強化を図る。
- ④ 会員の高齢化や入会者の減少に伴う組織力の低下により就業に支障が生じないよう、会員一人一人の資質の向上を積極的に進める。
- ⑤ 会員の技量や資質の向上を図るため技能講習や接遇研修を実施するなど、センター全体のイメージアップを図る。
- ⑥ 情報の共有のため、毎月発行している「シルバーだより」を有効活用し、「自分たちのセンター」という意識づくりを会員に進める。

(2) 会員確保運動の強化

- ① 会員拡大がセンター事業の展開に不可欠であることを、全ての会員、役職員が認識し、一丸となって取り組む。
- ② 定例会説明会日以外に来所した希望者に対し、臨時的に説明会を開催するなど臨機応変な対応をとり、希望者の利便性を図る。
- ③ ハローワークとの連携強化やイベント会場等でのキャンペーン活動による普及啓発活動に取り組む。
- ④ ホームページの充実や地域FMラジオを活用してセンターの紹介を行い、魅力あるセンターづくりに努め、会員の入会促進を図る。
- ⑤ 退会を考え始めた会員に対し、相手の立場に立った親身な対応を行い、就業相談や就業促進を強化し、退会抑制に取り組む。
- ⑥ 各種の同好会や会員相互交流の場を充実するとともに、会員互助会の組織化も進め、魅力のあるセンターとすることで新たな会員確保を進める。

(3) 就業機会の開拓・拡大

- ① 会員の就業ニーズと地域企業等のニーズを把握・分析し、就業機会の拡大に向けた各種施策に取り組む。
- ② 常に受注者の立場にたった就業にこころがけ、地域に期待され信頼されるセンターとなるように努める。
- ③ 行政機関や公共的団体との意見交換や連携を密にして、新たな公共事業の受注拡大に努める。
- ④ シルバー派遣事業については、高齢者活用・現役世代雇用サポート事業を活用し、案内チラシの効果的な配布とコーディネーターを引き続き配置し、派遣事業先の新規開拓に努める。
- ⑤ 就業場所においては「のぼり旗」を設置するとともに、服装や丁寧な会話や就業等に心がけ、センターのイメージアップと存在を市民へ訴える。
- ⑥ 刃物研ぎ事業を広く市民へ周知するとともに、会員の職務能力の分析及び地域が求める新たなサービスについて開拓する。

(4) 安全・適正就業の推進

- ① 安全・安心なシルバー事業の確立を図ることは、シルバー事業の根幹をなすものであり、「安全はすべてに優先する」という会員心得を最優先に、作業現場の事前確認を確実に行之、また作業開始前のミーティングで会員相互の意思統一をして安全就業に努める。
- ② 会員一人一人が安全意識を常に持ち、作業に適した服装や作業におけるヘルメット、墜落防止用器具の適正な使用を行う。
- ③ お互いの技術を共有し、気軽に会員同士で指導・助言を受けられる環境とすることで、技術力の向上と明るい職場づくりに努める。
- ④ 刈払い作業や剪定作業の実技講習会による技術力の向上や安全衛生講習会を開催し、より一層の安全・適正就業に努める。
- ⑤ 発注者への迷惑行為や会員間の協調性に欠如、無届就業をする等の行為は不適正就業行為とみなし、安全・適正就業委員会において、訓戒や一定期間の就業停止等の厳しい罰則措置を適用する。
- ⑥ 毎月10日の安全の日に安全パトロールを実施するとともに、作業現場での看板やのぼり旗の設置、安全ベストの着用を徹底し、会員の事故防止への認識を高める。
- ⑦ 発注者等からの苦情や就業中における事故やケガの発生状況を、毎月発行する「シルバーだより」に掲載して、情報の共有化を図り再発防止に努める。

(5) 地域社会への貢献

生涯現役社会の実現に対応し、会員の生活環境に合わせたボランティア活動への参加や、趣味を生かしたサークル活動など、できる範囲で行う社会参加活動等の取り組みを積極的に推進し、信頼されるセンターを目指す。

(6) 事務局体制等の充実と強化

- ① 会員が常にセンター全体の動きや運営状況を理解するため、シルバーだよりによる情報提供を充実しながら、適正就業ガイドラインに沿った事業の運営に努める。
- ② 業務の多様化や事務量の増大、事務処理等の複雑化に対応できる業務見直しや充実を図るなど職員の資質向上に努める。
- ③ 上部団体との連携を密にするほか、他センターへの先進地研修や意見交換を行い、効率的な組織体制に努める。
- ④ 引き続き事務局の経費節減に努めるとともに、社会経済情勢の変化に即応できる体制を構築しながら、センターに関係する者が働きやすく明るい環境づくりを作る。
- ⑤ 令和5年度に導入予定のインボイス制度や配分金振込手数料の有料化など、制度改正等に的確に対応できるよう、引き続き調査研究をする。
- ⑥ 公益社団法人として、行政庁の指導監督に対応するため法令遵守を徹底する。